

## 教育改善のための共通認識を

教養基礎教育主管 大 好 直

秋田大学は平成 15 年 9 月に中期目標・中期計画（素案）を文部科学省に提出しました。その中の基本的な目標の第一番目に、「秋田大学は、学習者中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成する。また、地域の文化的・経済的発展を支え、国際人としても通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備え、近未来に予想される社会環境の変化に柔軟に適應できる人材を養成する」と謳っています。

いうまでもなく、良い成果を得るためには、全学が一致協力して取り組まなければなりません。中期目標・中期計画の趣旨内容を十分に理解するとともに、常に全ての構成員一人一人の努力目標でもあるという認識がなければなりません。重要な点は、教官の個人レベルからの発案が総合される形で提案され、教育改善につながる活動として具体化しようとする視点です。今後、教育機関としての組織的な取り組みもありますが、教育実践の特質として夫々の担当教官の個性と資質に負う

ところが極めて大きく、深みのある教育を実現するためには、教育現場からのボトムアップを大切に考えなければなりません。したがって、組織的な活動とともに、それぞれの立場で自発的に実践する報告を第一に尊重すべきであり、もし、その実践報告が同僚教官の共感を得るものであれば、「教育業績として評価できる良い取り組みである」として讃えるべきです。

教養基礎教育年報は、調査研究内容の論考や教育活動の方法を理解するための機会を提供し、また、教育現場を担う教官の意見を交換するための広場を提供しています。この年報の働きは、教育改善のための情報を円滑に循環させる機能を果たしており、大変重要です。寄稿された論考の内容が、教育改善活動への貴重な手掛かりとなると同時に、望ましい共通認識として熟成し、教育現場に活用されていくことを願っています。この年報を介して中期目標達成のために必要な共通認識が形成されることを望んでいます。